



えち鉄、福鉄の相互乗り入れ先送り！ 地域交通の活性化なるか

西川知事のマニフェストに掲げる全国初の異なる鉄道事業者による鉄道と路面電車の相互乗り入れ。来春開始予定が不透明となり、西川知事の心中穏やかでない。しかし、巷では「今必要か?」「血税は均衡ある発展に…」など様々な意見がある。

県民にとって最良の事業か?

福井市中心部と勝山市、坂井市三国町を結ぶ「えちぜん鉄道」。平成15年7月開業から昨年丸10年が経過した。13年6月2度目の衝突事故で京福電鉄が鉄道事業から撤退したため、越前本線と三国芦原線を第3セクター方式により存続させることで県と沿線市町村が合意。えちぜん鉄道株式会社は平成14年発足し、再開に必要な安全性確保のための工事や設備投資を行い、翌年

8月三国芦原線の西長田〜三国港、勝山永平寺線も10月に永平寺口〜勝山までが開通し、全線での営業が再開。利用者は14年度の242万人から23年度は315万人まで増加。33年度の利用者見込み数を333万人としている。県はえち鉄発足の平成14年から23年度までの10年間の県と沿線市町の負担額と今後10年間の計画案を示した。それによると、資本金、運転再

開工事費、資産所得費、設備投資などに、県が67億5千万、市町が28億2千万、国が53億3千万円。平成24年から33年度、10年間の負担額を、県が15億6千万、市町が21億9千万、国が19億7千万円と予想。一方、来春開業を目指していた福井鉄道とえちぜん鉄道の相互乗り入れ開始時期が先送りされた。12月定例会議の知事提案理由の中で、えち鉄、福鉄の両鉄道事業者が国、県、福井市の負担により、来春を目指し

えちぜん鉄道への支援実績と今後10年間の支援案

費用内訳	負担	平成14~23年度 実績	平成24~33年度 案	20年間合計
初期投資 (運転再開工事等)	県	7.6億円	—	7.6億円
初期投資 (資産取得等)	県	22.7億円	2.4億円	25.1億円
設備投資	(国庫含)	(53.3億円)	(19.7億円)	(73.0億円)
	県	37.2億円	13.2億円	50.4億円
資本金	市町・民間	5.4億円	—	5.4億円
経営支援	市町	24.4億円	21.9億円	46.3億円
合計	—	97.3億円	37.5億円	134.8億円
県補助額		67.5億円	15.6億円	83.1億円
市町負担額		28.2億円	21.9億円	50.1億円